

## 創立60周年記念事業

10月9日に尾道駅前緑地帯、しまなみ交流館において創立60周年記念事業として「ONOMICHI "KOKORO" Festival」を開催しました。

当日は10月としては暑いくらい



の天候に恵まれ、多くの市民の方と一緒に楽しむ記念事業になりました。

ギネス世界記録挑戦につきましては、『Largest display of origami citrus fruits』という記録名で、折紙でレモンを作成して2000個以上ディスプレイするとう記録に挑戦しました。当日は市民の方にもご協力をいただき、約5000個の折紙レモンを作成し、2217個をディスプレイし、無事にギネス世界記録認定となりました。皆様方のご協力、心より感謝致します。



また、レッドブルパフォーマンスによる世界レベルのパフォーマンスショーやよしもと芸人によるお笑いライブ、飲食ブースなどのイベントに想定を超える多くの方にお越しいただき、誠にありがとうございました。

した。

夕方よりしまなみ交流館に場所を移して、テレビでもおなじみの『大家族 石田さんちの肝つ玉お母ちゃん 石田千恵子さん』にご講演をいただきました。家族について石田さんの経験をもとにした講演でしたので、親しみやすく聞きやすい講演会だったと思います。講演後の著書販売、サイン会は行列ができて、石田さんのファンの方はとても喜ばれていました。ご来場ありがとうございました。



繋がりを認識し、尾道の名産品であるレモンをギネス世界記録挑戦という形で発信し、無事にトラブルなく終えることができました。記念事業にご協力をいただきました皆様、ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました！！

（記事：60周年実行特別委員会 副実行委員長 高橋建太）



## 親として、人生の先輩として、教育者である私たち

10月15日(日)、「親として、人生の先輩として、教育者である私たち」と題しまして、子育て中の親御さんを対象とした事業を開催させて頂きました。

講師にお招きした二人の先生方は児童ソーシャルワーカーがとも身近なものであり、子育てを一人で悩まなくても良いという力強い存在をお示し下さいました。



自分の色々な感情に素直に向き合うこと、ピンチはそれを取り越えられる時に現れるから逆にチャンスだということ、周囲に頼る事も必要なことだ等、子育て中の親御さんには心強い暖かなエールをたくさん頂いたように思いました。

50名の定員には若干及びみせんでしたが、それが逆に好機となりアットホームな雰囲気グループワークでも意見が活発に出ていたように思いました！

生憎の天候の中お集まり頂いた皆様、本当にありがとうございました！！

（記事：地域の希望育成委員会委員長 川原奨二）





# 10月例会

10月16日(月)、テーマ「近助の精神(自助、共助、防災隣組で安心安全まちづくり)」と銘打ち、10月例会が開催されました。

本例会では担当委員会である地域特性を活かしたまちづくり委員会が当初から勉強してきた防災の分野に関して、防災・危機管理アドバイザーである山村武彦先生にご講演頂きました。

今回は、尾道市民の皆様にも是非山村先生のお話を聞いて頂きたいと考え、尾道市役所・尾道市社会福祉協議会や各神社青年部の皆様を始めとする地域の方々をご招待させて頂きました。

招待参加者の中には高い防災意識

がある方もおられ、質疑応答が盛り上がりたりと多くの反響を頂くことができました。普段の生活において、何時災害に見舞われるかわからない中、メンバーにとっても有意義な学びの時間になったと感じます。

地域特性を活かしたまちづくり委員会は、今年1年間、各地域の祭りや各種ボランティアにも参画して参りま



(記事・地域特性を活かしたまちづくり委員会 委員長 宮地晃二郎)

した。地域に暮らす多くの方々や交流してきた中、祭り一つをとってみても各お宮だけで実施しているわけではなく、他の宮などからも多くの参加者が集い、一つの祭りを盛大に行っています。これは尾道という地域の大きな特性と捉えています。

この地域の特性を活かせば防災についても、祭りと同じく、尾道で何らかの災害が発生した場合にも組織の垣根を越え、災害対策にあたることも可能であろうと考え、本例会を設営致しました。

ご多忙中にも関わらずご参加賜りました、諸団体の皆様に厚く御礼申し上げます。



## 小林和作を偲ぶ会

去る11月4日、西國寺さんにて故小林和作画伯を偲ぶ会が開催され、次年度理事の皆さんで法要及び小林和作賞授与式並びに講和会に参加して参りました。

小林画伯の墓所にお参りをしたあと、西國寺境内にて、尾道市の美術振興に貢献された方に贈られる小林和作賞の授与と、手塚弘三先輩による小林画伯にまつわる講話を拝聴しました。

今年小林和作賞は、尾道青年会議所特別会員でもある、シネマ尾道の河本清順先輩が受賞されました。過去28名の方が受賞されていますが、団体としての受賞はシネマ尾道さんが初めてとのこと。

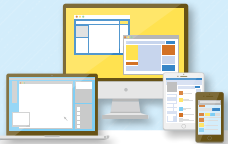
河本先輩の受賞スピーチ及び手塚先輩の講話を拝聴し、芸術の秋に新たな学びを得た1日でした。



(記事・政成啓行)







## 尾道青年会議所 ホームページリニューアル

去る10月30日、予定より計画のあった尾道青年会議所のホームページがついにリニューアル致しました。

以前のホームページでは閲覧がしづらかったスマートフォンに対応、またPC・タブレットいずれでも快適に閲覧できるよう、レスポンスなサイトとして生まれ変わりました。また、活動報告にアップできる画像の枚数と容量も大幅に増えました。これによって、活動報告をより楽しく、分かり易く閲覧できるものと確信しております。

尾道青年会議所の広報を担う大切なツールとしてご利用頂きたいと思えます。

構想から10ヶ月、何かと助けて頂きました中司副委員長・島田推進リーダーを始めとする総務広報委員会の皆さん始め正副事務局及び理事の皆様、そして実際のページ構築をして頂きました、有限会社メディアジャンクション 村上稔先輩に厚く感謝申し上げます。

(記事：政成 啓行)



スマホ版



PC版



## ベッチャー祭り



11月1日(水)～11月3日(金)にかけて尾道を代表する奇祭であるベッチャー祭りが開催されました。本年はベッチャー祭り210周年ということもあり、例年より多くの市民の皆さんで賑わいました。

例年通り、JCメンバーは大太鼓、小太鼓の担ぎ手として参加させていただきました。特に11月3日は次年度社会開発委員会が担当させていただくということでしたが、次年度理事予定者が率先して担ぎ、またそれに呼応するようにメンバーの皆さんが積極的に担ぐといった様子を随所で見ることができました。まさに次年度理事長予定者の「率先垂範」を体現できたのではないのでしょうか。また、メンバー同士がともに苦勞を分かち合う事で素晴らしい一体感を生み出すことができたと思っております。

参加していただいたメンバーの皆様、2日間本当にありがとうございました。

そして、本年度地域特性を活かしたまちづくり委員会の宮地委員長を初めとする委員会メンバーの皆様には多大なご尽力、ご指導を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

(記事：2018年度社会開発委員会 委員長予定者 河原 研介)



# Congratulations!

巻幡さん 第3子

8月30日に長男が産まれました。  
名前は夏希(なつき)と付けました。  
元気に育ってくればいいなと思います。  
宜しくお願いします。

(記事: 巻幡 恭史)



## クリスマス会

今年のクリスマス会では「こころ おどる」をテーマにご家族皆様と一緒に楽しい時間を共有できるような内容を企画しています。マジシャンによるマジックショーやプリザーブドフラワーでしめ飾りを作ったり、サンタさんからプレゼントがあったりと、今年一番「こころ おどる」楽しい時間を過ごし、思い出に残るクリスマス会になるように委員会メンバー一丸となって取り組んでいきますので宜しくお願い致します。

(記事: 中島 裕一朗)

日時

2017年12月3日(日) 16:30~

場所

グリーンヒルホテル尾道



皆様にご紹介にあずかりました土屋 誉之です。「皆様、はじめまして」と言う方が半分以上はおられるかと思えます。正直、先程檜野君もスピーチで仰ってましたが、自分が無事卒業できる、卒業生スピーチができるというのが、ここ3年ほど不思議でなりませんでした。

この場に立たせて頂いて、先程の檜野君の言葉も聞いて改めて卒業と言うものがどんなものなのか、自分でほんやりと見えてきたような、そうでないような。

皆様にご紹介にあずかりました土屋 誉之です。「皆様、はじめまして」と言う方が半分以上はおられるかと思えます。正直、先程檜野君もスピーチで仰ってましたが、自分が無事卒業できる、卒業生スピーチができるというのが、ここ3年ほど不思議でなりませんでした。

皆様にご紹介にあずかりました土屋 誉之です。「皆様、はじめまして」と言う方が半分以上はおられるかと思えます。正直、先程檜野君もスピーチで仰ってましたが、自分が無事卒業できる、卒業生スピーチができるというのが、ここ3年ほど不思議でなりませんでした。

## 卒業生スピーチ

皆様にご紹介にあずかりました土屋 誉之です。「皆様、はじめまして」と言う方が半分以上はおられるかと思えます。正直、先程檜野君もスピーチで仰ってましたが、自分が無事卒業できる、卒業生スピーチができるというのが、ここ3年ほど不思議でなりませんでした。

皆様にご紹介にあずかりました土屋 誉之です。「皆様、はじめまして」と言う方が半分以上はおられるかと思えます。正直、先程檜野君もスピーチで仰ってましたが、自分が無事卒業できる、卒業生スピーチができるというのが、ここ3年ほど不思議でなりませんでした。

皆様にご紹介にあずかりました土屋 誉之です。「皆様、はじめまして」と言う方が半分以上はおられるかと思えます。正直、先程檜野君もスピーチで仰ってましたが、自分が無事卒業できる、卒業生スピーチができるというのが、ここ3年ほど不思議でなりませんでした。

皆様にご紹介にあずかりました土屋 誉之です。「皆様、はじめまして」と言う方が半分以上はおられるかと思えます。正直、先程檜野君もスピーチで仰ってましたが、自分が無事卒業できる、卒業生スピーチができるというのが、ここ3年ほど不思議でなりませんでした。



### 編集後記

立冬を過ぎ、いよいよ冬が到来します。皆様風邪など引かれておりませんか。今年も残る所2ヶ月をきり、時が過ぎるのは早いものだなと改めて感じております。皆様にご協力いただき、本年も尾道青年会議所活動を多くの方に発信し、そして見ていただくことができました。本当にありがとうございました。

先日の合同委員会で、卒業予定者による卒業生スピーチが全て終わり、いよいよ卒業例会が近づいて参りました。総務広報委員会では皆様を無事お送りできるよう、委員会メンバー一同全力で準備しております。最後の最後まで頑張ってください。どうぞ宜しくお願い致します。

(記事: 中司 昌克)



# 卒業生スピーチ



失礼します。ただ今ご紹介頂きました榎野です。今日は宜しくお願ひ致します。

こんなに緊張するものなんでしょうね。こんな大人数に見られるという経験があまりないので。

それでは始めさせて頂きます。卒業生のプロフィールを見て頂ければ解るんですけども、私自身J.C.歴がそんなにあるわけではないです。理事の経験もなく、真剣にJ.C.活動を行ってきたか、と聞かれると首を縦には振れませんが、今この場で話すことがあるかと言えませんが、話を進めさせて頂きたいと思ひます。

私は平成25年に入会をさせて頂きましたが、この時、私が自分の事務所を開業して1年目でした。実際は平成24年7月に開業したんですけども、色々ありまして、平成25年に再開業、要は本当に1人だけでやることになりました。J.C.と関係が無いようですけども、業務の全てを1人で行っていたので、実際にJ.C.に出るのとは不可能だとは思ひながら、その時自分の考えとか信条と言ふか、決めていたのは、「言われたら全部やる」という動きをしていた為、入会する運びとなりました。

平成25年に開業してバタバタの中、平成26年の輝くJ.A.Y.C.E.育成会議に所属することになったんですが、去年の夏期講習でも謝罪をさせて頂いたと思ひますが、そのときの委員長には大変なご迷惑をお掛けしたと思ひます。幹事という役を全くやらぬ、J.C.にも出

てこない、お会いしたのはほんの数回だったと思ひます。

色々ご指導頂きまして、心に決めたことは、「はい、辞めよう」と思ひました。1年目で退会を決めました。退会を決めたその日に事務局に行つてみました。辞め方が解らないので、事務局にいらつしやる女性の方に「すみません、辞めさせて頂きたいんですけど」つて言つたら、「そんな用紙とか形式はない」と。何か騙されたような気がするんですけど、それでもまだ食らいついて「辞めたいんです」とお伝えをしている時に、同じ学年で今は先輩の方ともう一人のメンバーが来られまして、「とりあえずちよつと来い。タバコ吸いにいくぞ」と。どうせ辞めるんで先輩でもなく同級生だろうと思つて話をしてる途中で、「とりあえず「辞めるな」と止められるんです。辞めるなど言われても辞めるんだ、と話をしたんですけども、「とりあえずJ.C.に居ろ」と。その時同級生というか先輩が仰つた言葉というのが、今僕がここにいる二つの理由なんです。その方も「その時は卒業する」といふことが何だかわからない。だけど卒業された人が口を揃えて言うのが「卒業できて良かった」。だから居ろ。」でした。

止めてもらつてるんだか何だか良くわからず、事務局の女性の方も辞め方を教えて貰えませんでした。「辞めるな」と言われたので、とりあえず「帰ります」と。あの時辞め方をちゃんと教えて頂けたら今ここに僕は居ないんですけど、ただ、その言葉だけがずっと残つていました。「卒業できて良かった」。でもその方は景色を見ていないのに、「皆、卒業できて良かった」と言う。その方にお会いしたときに卒業して良かったかどうか聞けば良かったです。まだ聞けていないんですけども。

ただ、私は卒業生スピーチの場に立てて良かったなと思ひます。

その時は業務や自分のことばかりで周りが見えず、J.C.にも参加しなかつたんですが、次年度の室合同委員会で、社会開発室 地域交流委員会に配属されました。このお祭り委員会、J.C.にいて良かったなと思える委員会の一つです。これも去年の夏期講習で謝罪させて頂いたんですけど、1年間本当に飲ませて頂きました。「昼間から酒が飲めるから来い」と言われたらすぐ行きまして、一緒に飲んでた人も朝まで飲んでたことが多く、仕事はどうしたのか全然思い出せないことが多かつたんですが、その時も事務所は僕人で行つてたんですけど、何故かこの委員会が一番出席していたのかも知れません。ただ、いっぱい飲ませて貰いました。

ただ、その時に気付いたことですがその時の委員長も倒れました。1年前（輝くJ.A.Y.C.E.育成会議）の委員長は確実に僕のせいで倒れたんだと思ひますが。意識はしていなかつたんですが、その次年度、平成28年にLOM支援特別実行委員会に配属されることになりました。その時に、周りから決して大きな声ではないんですけどチラホラ聞こえてくるんです。「死神」とか「疫病神」とか「あそこの委員長は必ず病院に送られる」とか。そうしたら周りから、「3年目の委員長も病院に送つとけ」と言われました。こうなつたら自分もノリノリになつて「たぶんこの人も病院に行くだろうなあ」と思つてたらこの1年は何もなかつたんです。自分も委員会に参加させて頂いたとは思ひます。結局3年目の委員長は倒れることはありませんでした。病院に行く事もな

く無事終わったかと思うと、年が開けたら、触れていいかわかりませんが、その時の委員長が居なくなつていました。

そしてラストイヤーの今年ですが、まさか室合同委員会で1年目の時の委員長にお会いするなんて思ひもしませんでした。今度こそ委員長にとどめを差してやろうと心の中では思つていたんですけども、結局今年の委員長は無事なんです。

かつ今年はまだ参加できていない年です。平成27年・28年は比較的参加できていたんですけども、今年はまだなかなか参加できていません。そして、忘れかけていた僕の中の死神・疫病神が効かないんですね。委員長が入院しないと思つたら、まさか自分が入院することになりました。これはやりすぎたな、と。それで今年の夏期講習は欠席致しました。本当に酷い目に遭いました。

実際に平成26年から29年までJ.C.にて活動させて頂いている中で、一番最初の、退会しようとして事務所に行つた時のあの先輩の言葉がどうしても気になります。卒業できて良かったのかと。良かったんだと思ひます。

何が良かったのかと言ひますと、J.C.の3信条である修練・奉仕・友情というのが何一つできていなかったと思ひますが、片思いかも知れませんが友情という面で、僕が大好きな素敵な人たちに出会えたというのが、J.C.に入つて良かったことだと思ひます。

あと2ヶ月、このまま何も無事に終われたら番良かったのかな、と思つています。

ここにいる皆さんの大部分が先輩のような感じなので、あまり大きいことは言えませんが、ただ仮入会員だったり1年目の方々にお伝えしたいのは、退会したいと思ふときが来るかも



知れません。その時にどう思うのか、辞めるのもしんどいし続けるのもしんどい。しかし、卒業の年になるとすごく楽しいので、そこまで頑張ってみたらどうでしょうか、と僕が経験したことをお伝えできたら、と思います。

その時に、「同じように「卒業できて良かったな」「この場に立って良かったな」と思えたら良い終わりになると思います。今後皆さんが活躍できることを祈念し締めさせて頂きます。ありがとうございます。



皆さんこんにちは。2017年度卒業生スピーチの大トリを務めていただきました桑田智也です。このスピーチの順番

は最後の嫌がらせだと思って、ありがたく受け取らせていただきます。少し前に新開で先輩方にお会いしまして「お前しれつと卒業するんか」と言われました。しれつとというのがまさに私の9年間のJ.C生活を表した素晴らしい言葉ですが先輩方だと思いました。しれつとJ.C生活をすごしたおかげで、ここにいる人で始めて会う方もたくさんいます。なので、まずは自己紹介からはじめたいと思います。

今現在の仕事が、尾道の方にとって身近にありながら、あまり知られていない船の仕事です。船といつてもいろいろなカテゴリーがあつて簡単に説明するのは難しいですが、私の実務は外航船舶の貸渡業というのをしています。大きい船を買って、長期に渡って外国の業者に貸し出す仕事です。この仕事はかなりマーケットに晒されています。為替や運賃マーケット等は非常にボラティリティが大きいです。所有している船はペルーとかヒューストン、バングラディッシュ等世界

中であつて、乗員もすべて外国の方です。それで何が言いたいのかというと現在は結構グローバルな仕事をしているのですが、私は幼稚園から小学校6年生までの8年間、同級生が7人なんです。今考えると凄く特殊で、イベントが全て特殊でした。修学旅行ももちろん7人で、先生も4人くらいしか来なくて、奈良・京都・大阪に行きました。大きな学校はガイドさんを雇っているんですが、先生の指示でそこについていて、説明を盗み聞きするというのがその学校の慣わしなんです。盗み聞きした内容をメモして、学校へ帰った後で在校生に発表するというのをやりました。運動会もずっと出っ放しで、退場門から退場した後すぐに入場門へ走っていくような環境でした。小学校1年生の時で全校生徒が65人くらいで、卒業するころには27人になっていました。運動場も1週75メートルくらいの学校で、赤白の2チームに分けるとすぐに終わってしまうので、高学年は2周するんです。これが結構しんどいんです。体育館も無くて、公民館があるんですが、そこで卓球が出来るんですが、卓球ですらボールが天井にあたるような状況で育ってきました。ずっと7人で8年間、閉鎖的な環境でやってきたので、その閉鎖的な環境というのがコンプレックスになって、広い世界を見たいというのが今の仕事に役立っているのかなと思います。

続いて中学生時代ですが、印象に残っているのが塾の英語の先生です。英語の先生が空手の達人で、イギリスにいたころレストランの入り口で用心棒のようなことをやっていた方です。その先生がめちゃくちゃ叩く人でした。女性でも関係なく叩く人で、でもやっぱり叩き方が上手というか大きい音はするんですが、たんこぶとかは全くできませんでした。とにかくそれが恐ろし

くて英語だけは頑張りました。その奥さんは甘い方で、同じ塾で数学を教えてくれていたんですが、授業の時に数人がガムを噛んでいました。そしたら英語の授業で、「数学の授業でガムを食べた奴は手を上げろ」と言われて数人が立っただけです。次の瞬間、僕の隣にいた人が全力でどうやって後ろに飛んでいって、本当に怖かったです。そうやって体で覚えていった中学生レベルの英語で仕事もどうかこなしています。それから中学生の時には映画にはまってまして、自宅から松永駅まで自転車で1時間半かけて映画を見にいました。それで必ずJ.Cの最新作は見ました。J.Cでジャッキー・チェンのことなんですけど、本当に大好きで、それに影響を受けて体も鍛えてました。僕の人生に大きく影響を与えた人はジャッキー・チェンでした。

それから高校ですかね。高校はバレー部に入ってたバレーばかりやりました。バレー部の二つ下の先輩に安本君と工藤君がいました。二人とも立派な大人になったなと先輩として誇らしいです。

それから大学の時は全く勉強をしませんでした。高校生の時から勉強はしていなかったのでも、どんどん成績が落ちてしまつて、山脇君とは高校の同級生なのですが、山脇君はトップクラスの成績で同級生として誇らしいのですが、私はずっと成績が下降していつ、それから適当に大学に入ってからやはり勉強はせず、覚えた事は麻雀くらいですかね。

大学を4年で卒業して、そこから車の会社に就職しました。周りの友人が就職活動をしていたので、自分もやろうということでも就職しました。その当時は尾道に戻ることばっかり考えたのですが、一年半くらいたった時にやっぱり戻らないといけないと考えて会社を辞めて

戻ってきました。弊社には工場があつて、そこで溶接やクレーンの操縦等をして現場で働いてました。そこから1年くらいして今度は東京の会社に行くことになりました。その会社がとても大きい所で、日本を代表する総合商社の船を専門で扱っている会社でした。そこは社員が皆エリートばかりで、東大や京大等の大学を出ている人が7割くらいいて、でも嫌な感じが全くないんですね。学歴を自慢するような人はいませんでした。船の会社なのでお酒をとんでもなく飲むし、体育会系の人が多くて、上司がとんでも厳しかったです。お客さんと飲みについて、午前2時にお客さんを見送った後、銀座のど真ん中で説教が始まつたりとかありました。でもその時に上司が泣きながら説教をして、したらその部下にもその熱意が伝わったみたいなんです。少しずつ行きますというようながあつて、とても熱い所のある会社でした。その商社の副社長まで行った方なのですが、毎日朝6時15分くらいに会社に行つていて、エレベーターが動くのが6時30分からなので、ロビーで新聞を読んでいたらしいんです。そうしたら会社が気を使って6時15分からエレベーターを動かしたんです。そうしたらその人が怒つて、自分一人の為にエレベーターを動かすんじゃないと言つて、また6時30分からは戻したんです。そんな大きい会社の副社長なのに、とても人間味のある方で、その人は毎年年賀状を手書きで書いていて、とても真似のできない凄くいい方でした。そこから東京に5年半くらいいて、尾道に戻ってきたのが入会の1年くらい前でした。

以上でよろしいでしょうか。J.Cの話は唯一ジャッキー・チェンの話だったという卒業生スピーチでした。ご静聴ありがとうございました。